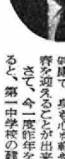
五城目町広報

発行所
五城目町役場
総務課

新春を迎えて

五城目町長　加賀谷力司



この冬は珍らしくスタスタの冬で、ハタ〇ハタのとれたと喜び豊作といわれているので、ほのあたたかい気持で一九六〇年の新春を迎えました。

昨年四月就任以来は何でしたか、昨年うまくいかなかった方も、得意であった方も、ようやく区切りもあるやうに一九六〇年を迎えました。

一年を顧みて、何一つ満足の行く事業を為なかった方はこの年を教訓の年であることを祈り上げます。

町でも、いろいろな問題が次々と次々に解決して、年末には三百万円のお金を、中小企業者へ資金として御利用頂える政府となりました。全く御信頼のいたりであります。私も健康で、身も心も新年を迎えて新春を迎えることが出来ました。

さて、今一度昨年をふり返ってみると、第一中学校の建築も一応終止符の段階になり、富根内中学、五城目分庁舎の新築、杉沢、中村開拓区の警易水道工事、更に、ブルトーザー、大型トラックによる各種土木工事の進捗都市計画事業の用地買収の完了、こと数年来懸案の田町の道路もようやく解決のめどがつき、各部落間の電話も次々次々に開通し、昨年から着足した年金制度による第一回の裁定給付、工藤失業者問題の所得税還付、町民各位の積極的な御協力によって皆さんとその成果を挙げ、特に農業、商業者側からの懇談会、官川民による農村懇談会からは、数多くの問題をなげられ、木町の将来の商工農に望を置せしめた自負しております。

更に、昨年度のレスリング大会における町民の熱烈な応援は三笠宮殿下迎えて最高潮に達し、まことにこれ水戸黄門の格調に匹敵致しました。更に、町内主要地区の道路改良、中央公民館の整備等に精進し、町内主要地区の道路改良、中央公民館の整備等に精進し、町内主要地区の道路改良、中央公民館の整備等に精進し

県政特報版

秋田県広報

県政特報版

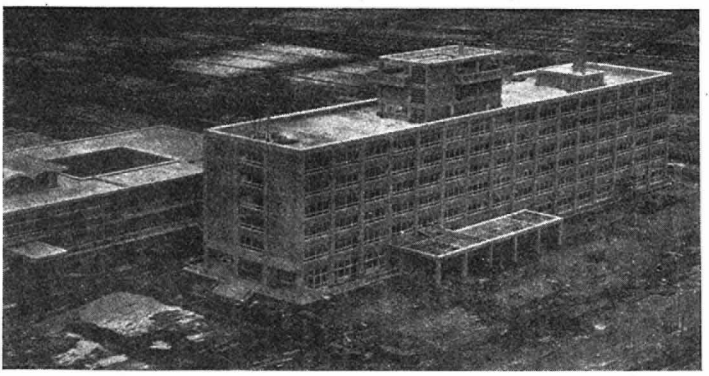
発行所　秋田県庶務課
編集者　秋田県秘書課

新しい県庁舎の完成

県庁舎は、昭和三十二年月の火災で焼失したので、翌三十三年三月から耐火鉄骨の永久建築として着工、工事は順調に進み昨年末に竣工しました。

新庁舎は、本館地下一階、地上六階、塔屋共地上三階で総面積二万六千三百平方メートル、エレベーター、庇付きの近代建築で、確実な上の県政の中心として、まことにふさわしい偉容です。

総工費は十億六千八百万円ですが、うち四億二千八百万円は県民の篤志家の寄付金、火災保険料、一般県費ですが、これに支払し、残りの千八百五千万円は今後二十五年間で年賦償還することになっています。



総合振興四カ年計画のあらまし

県では昨年四月、再選された小畑知事が就任発足直後計画に着手し、目下鋭意進めているのさいに公約した

❶若い人々に働く場所を
❷恵まれない人々に希望を
❸県外から生産県へ
❹町づくり村づくりに活を

の四つを内容とした総合振興四カ年計画を立て強力に施策をおし進めています。いままで昭和三十一年度から始めた総合振興五カ年計画に基づいてしたことを行い当初計画に対して三十三年度末で七六%という顕著な進みがをしましたが、最近の国民経済の伸びが著しいことや、政府と東北各県が一体となって進めている東北開発促進計画に合せて計画を進めたほうが効果的であることから、五カ年計画は三十三年度末で打ち切り、三十四年度からはあらたに県民生活の向上を目ざす「総合振興四カ年計画」を立てて実施することになったものです。この計画は全体会議で検討がかりでまとめたものを県議会の大綱に諮り、県の開発審議会等の意見も参酌して作成したものですが、次ページに計画のあらましについてのべましょう。

豊かな郷土の建設へ

公約いかして県政の柱建て

目標は所得の向上と失業者の解消

この計画は、現在県民の所得水準は、全国平均に比べると八二%となっていますが、これをこんど四カ年間に生産業生産所得を一四五%（昭和三十一年度を一〇〇%とする）ふやすことにより八六・七%まで高めようとするものです。これを就業者一人当りの生産所得からみますと年間十五万四千円であったものが二十二万二千円となり、また県民一人当りの分配所得では三万円増の九万四千七百円にふえることになりますから、現在に比べて生活水準は相当高まるものと期待されています。

また県内の人口は県外流出をのぞいて昭和三十七年には百三十六万三千人に増加すると推定されています。

これによって労働人口が新たに三万四千人増加するとみられています。

このため計画では、県内の工業を発展するなど第二次産業の大幅な振興をはかり、第二次、第三次産業に就業人口を吸収する雇用対策を大きく打出していこうとしています。

四年後には

	所得（一人当り）		生産所得	
	31年	37年	31年	37年
	658625円	958745円	945億	1,370億

（写真……新卒者の集団就職の出発）

（産業）（計画）

原料県から生産県へ

農業　まず農業では、米をいままで以上に増産し、四年後には三十一年度生産高の一五%増になる五十二万九千トン（三五三万石）にふやす計画で今後とも三段栽培を中心とする早植え、多肥栽培を奨励するほか、土地改良事業も大幅に進めます。

また果樹、野菜も増産されますが、とくにビート（砂糖大根）の栽培を強化して開拓農家を中心に現金収入をふやそうという計画です。

畜産については、乳牛を昭和三十三年現在の六千五百頭から二万七千頭にふやし、乳の生産量を二・六倍にする予定で、肉畜の増殖にも力を入れ、豚、鶏もふやし、飼料は現在の自給度六七%から八〇%にひきあげることになっています。

林業　県市町村有林四千六百ヘクタール、私有林一万九千四百ヘクタールに造林を行う一方、専材の集約的利用を目標に製材機械の貸与、譲渡制度を採用します。

水産　生産性の高い河川、湖沼に対してアユ、ニジマスなどを放流するほか、コウナゴ、コイワシ、コアジなどの活用と新漁法の導入を行い、また処理加工施設をつくって冷蔵業の総合的な振興を図り、暴漁の六五%の漁獲量にすることになっています。

鉱工業　天然ガス、原油、銅などの増産に重点をおき、地質調査、不採算中小鉱山の育成指導、探鉱援助金の交付、機械貸与を行い、生産を高める計画です。

また天然ガスを利用したガス化学工業、木材資源を利用した木材化学工業の振興を図るため工業誘致を積極的に進めていきます。

中小企業　現代市の鉄物、本荘市の農用刃物、大館市の曲輪五城目町のタンス、川連町の漆器等特産品の産地育成を大幅に進めるため、共同施設を設置する予定です。

また木工、機械金属工業振興のため、機械貸与、資金の融通等を行い、生産を高める計画です。

また天然ガスを利用したガス化学工業、木材資源を利用した木材化学工業の振興を図るため工業誘致を積極的に進めていきます。

電力　秋田臨海工業地帯に出力十二万キロの火力発電所を誘致する計画が立てられていますが県営発電は目下建設中の小和瀬発電所に次いで、今後四カ年間に、小沢発電所、湯沢沢発電所また梅河ダムを利用した梅河発電所の建設が予定されているので、昭和三十七年度には県内だけで約七億八千九百万キロワットアワーの電力が増強される見込みです。

河川　災害の多い雄物、米代川水系にダムや堤防をつくって水害を減らすことになっていますが、現在工事中の荒瀬ダムが三十八年に完成するほか、粕毛川の素波里ダム、小阿仁川の秋形ダム等の建設を図り、発電や農用水にも利用する計画です。

また雄物川の改修については、現在の雄物川の改修率四四%を五八%に、米代川の四〇%を五八%に、阿仁川の改修率四四%を五八%にするほか中、小河川の改修も一層促進します。

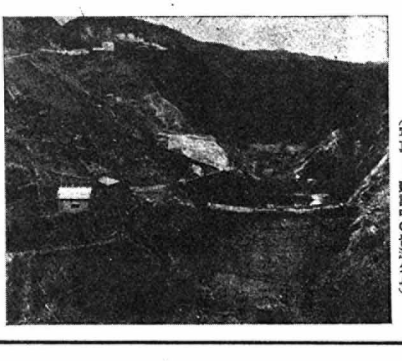
海岸防止　秋田、八郎潟海岸、男鹿半島海岸の防止工事を行います。

砂防　災害を防ぐ為、昭和三十年度以降、砂防工事を進めてきましたが、四年後までに、二千四十五箇所、二千四百ヘクタールを治山工事を行います。

また、八郎潟岸外三万町に砂防林百七十四ヘクタールを造成します。

（県土）（保全）（計画）

災害を未然に防ぐ



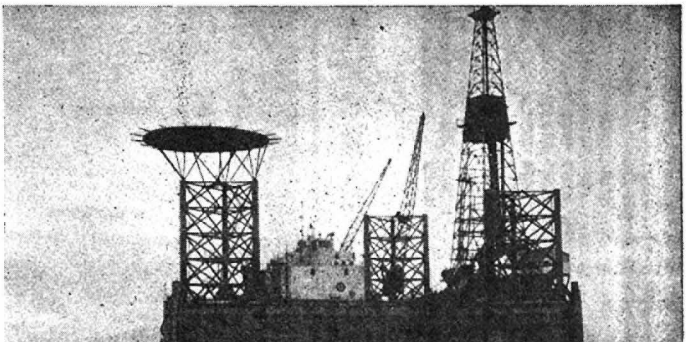
（写真……建設中の皆瀬ダム）

県民の皆さま

明けましておめでとうございます

◎新生活運動◎

お正月は、家族そろって簡素で、明るく、みんなで話し合ってくらしの設計をはっきりたてましょう



（写真）右―海底油田の試掘をする白龍号　上―八郎潟干拓地試験田の稲作

秋田県では昨年、わが国はじめての「海底油田」の採油が成功したのをはじめ、日本最大の干拓事業である八郎潟干拓地に見事な稲の実りがみられた。

また秋田臨海工業地帯には三十万坪にわたる土地造成事業がその大半を完成し、産業の集積の核に秋田港開発を拓く生機、躍角線の鉄道路線も順調に伸びている。

新天地拓かれる

とうして新潟県秋田の建設はこれから益々進められることになっています。

さらに金融、金属、北浦、樽等の漁港では波浪を防ぐ堤防や離岸工事を実施することになっています。

（交通）（都市）（計画）

秋田―東京に定期航空便

道路　現在本県の国道第一千六百五十キロのうち、未改良道路は千二百五十キロなので、一、二級国道の整備と隣接県との交流道路の改良に重点をおき県在の改良率（三三％）を二六％に引上げるとともに秋田―能代間は全部舗装秋田―大曲、秋田―本荘を半分から七割まで舗装する計画です。

橋・港湾　国道橋五三橋のうち、九三％を永久橋にかけかえ、主要地方道橋六〇％を永久橋にする計画です。

また秋田港は一万人級貨物船が横づけできる岸壁の築造を完成するとともに南防波堤を二百五十メートル延べ、船川港は三メートル岸壁の増設と臨海道路を完成して物資の交流を図ることとしています。

鉄道　年々ふえる物資輸送に対処して、重点を複線化、電車効率の増和、秋田操車場と生機・躍角線の秋田駅完成、民衆駅の整正において。

また、秋田県を中心としてディーゼル車の導入を図り、通勤列車の混雑を緩和することにつとめます。

本県はじめての飛行場の建設は、秋田市新屋町附山に予定して国と交渉中ですが、おそくとも三十七年度までは完成し、秋田―東京、秋田―仙台の定期航路（ダグラスD.C二級、一日一往復合せて六十二名を運ぶ）をつくることになっています。

都市計画　重点を秋田市緑かた所に置いていますが、とくに意旅客数、屋が予想され、大曲、鷹巣、角館、田沢湖町計画の基礎調査を行って都市計画を作成、その他の計画もあるため後から、三十六年度までに公園住宅千四百六十戸、公住住宅千百十戸、その他の百六十戸の四千二百九十戸を建設する計画ですが、民間の自己建設が二万八百十戸ほど予想されるので、合せて二万五千戸ができあがり、住宅難も相当解消される見込みです。

衛生　農住してる結核患者が二万四千人もいるとみられるので集団検診をできるだけ多く行い早期発見につとめるほか、全国一とみられる皮膚病患者を少くする努力として、生活の安定に、もちろん国庁のため教育に、また医療費の負担、産業などの他の経費にしているとみられるので、三十七年度までに公営住宅千四百六十戸、公住住宅千百十戸、その他の百六十戸の四千二百九十戸を建設する計画ですが、民間の自己建設が二万八百十戸ほど予想されるので、合せて二万五千戸ができあがり、住宅難も相当解消される見込みです。

労働　職業訓練制度の充実により、四ヵ年間に三千人の訓練生を就業させる計画です。失業対策では県営、市町村営で延べ二百二十九万人に働き場所を与え、また内職訓練を拡大するの他、婦女子や老人四千五百人が生涯に従事し得る予定です。

さらに勤労者の安定を図るため、住宅四百戸の建設資金を労働金庫に融資するほか、中小、零細企業の合理的な労使関係の研究調査と食活や生活環境の改善を図るため、生活科学研究所を新設することになっています。

教育　小、中学校で一学級五十名以上いるわゆるすしづめ学級を解消するため、教諭員の増員、施設の整備に力が入られます。

また危険校舎の三六村の改築を行うほか、産業、理科教育の設備を増設し、義務教育の充実を図ります。いつぱつ市町村の公民館、社会教育担当者を中心に社会教育を新活潑動との関連において進める計画で、とくに公民館は毎年十箇所建新設する予定です。

（厚生）（教育）（計画）

すしづめ学級を解消

民生　生活に困る人々の保護に重点をおき、四ヵ年間に三カ所の養護施設を増すほか、厚生資金の貸付をふやして保護世帯の自立更生を図ります。

そのほか身体障害者の更生訓練所の新設、虚弱児童の施設、母子寮、児童相談所、保育所などを増設し、恵まれない人々に授産の手をさしのべる計画です。

保生　現在二万五千戸が不足しているとみられるが、三千戸は民間の自己建設、残りは公営住宅で賄う計画です。

また、公営住宅の家賃は、収入の一定の率を家賃とする方式をとり、家賃の負担は、一万円以下の収入の人は、月額一千円、一万円以上二万円以下の収入の人は、月額二千円、二万円以上三万円以下の収入の人は、月額三千円、三万円以上の収入の人は、月額四千円の家賃を納めることになります。

第十六回国民体育大会

本県の開催本決り

本県は、昭和三十五年度から第十六回国民体育大会の開催県として、決定されました。

明年本県で国民体育大会を開くことが、昨年十月二十三日の開議で了解され、翌二十四日の国体委員会で正式に決定し、去る三十年、国体誘致委員会を結成してからほぼ四年ぶりに県民待望の夢が実現しました。

国体は各ブロックが持ち回りとなっていたので財政再建団体になっていたので財政再建団体には指定されていない本県での開催は多くの困難がありました。

ところが、ぜひ秋田県の国体という関係者の強い熱意と県財政が好転してきたなどの理由でようやく秋田開催が認められたわけです。

決定までの経過

金のかからぬ国体

国体をやれば数億からの金がかかるといわれていますが、これは国体のあるなしに拘わらず実施しなければならない都市計画や学校施設などの経費を国体開催の経費と混同されていたためです。

本県では「金のかからぬ国体（一億国体）」を標榜し、市町村営施設や学校施設をフル活用して、全国一の少ないお金で立派でいしかし内容の充実した国体を開いて考えです。

予算総額は約八千五百万円ですが国の補助金、入場料、寄附金を差引いたものを県と地元市町村で負担することになります。県の負担は二千万円足らず（第一次計画）、また市町村地元市町村の負担は二分呼当九十万円平均ですから決して成大なお金ではありません。

第十六回国民体育大会

本県の開催本決り

県民みんなの力で

国体開催の模様は八十年に一度しかないことであり、しかも国民総参加の国体であるこの地方の県民総参加の自覚を持つてこの始めて有意義な秋田国体への道が拓けるであり若しましょう。

県民の協力で達成

以上は各種既四年計画の主な点ですが、これ計画を達成するには県の努力はもちろんのことですが、県民のみなさんの深いご理解と協力がなければとうてい達成できません。

今明るい豊かな郷土づくりのために、ひとつて協力下さるようお願いします。

県民生活の向上は

県民の協力で達成

八カ年、市町村合併に払われた犠牲と努力タムダにしないため、町村建設に対しては全力をつくし、全県片足並みをそろえて協力できる体勢です。

村づくりに全力つくす

は、あくまでも町村民の意欲と計画に基づいて進められるべきでありますが、県としては過去二つ以来の大行事ともいえるこうした絶好の機会に、全国の人々に郷土秋田の実情をつぶさにみてもらい好い印象を与える以入なのこの会社、団体などの宿泊施設、寺院などを利用する以外、民家の分散宿泊も必要となります。

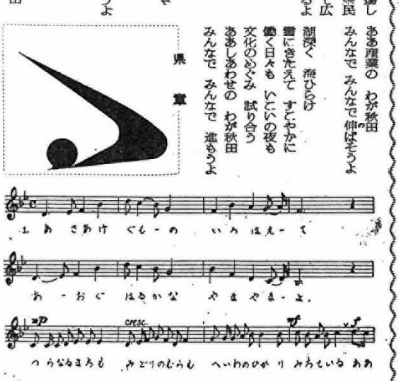
県民みんなの力で

国体開催の模様は八十年に一度しかないことであり、しかも国民総参加の国体であるこの地方の県民総参加の自覚を持つてこの始めて有意義な秋田国体への道が拓けるであり若しましょう。

県民の協力で達成

県民生活の向上は

村づくりに全力つくす



教育施設着々整備される

五城目一中第四期工事順調

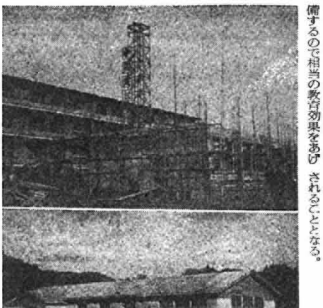
五城目第一中学校特別教室並びに管理棟建工事は、能代市中田建設の手で昨年４月二十八日より施工されているが、今年も暖冬に恵まれ予定通り省々と工事を進めている。既に外部コンクリート打込を終了し、現在サッシュ並びこれが完了次第を施工中である。これが完了により硝子の建築は、現在仮ぎまいの後長窓、窓枠窓、便所窓、現状窓も完成等が終転し、資材窓、現状窓も完成運動場の建設等、最後の仕上げを備するのの相当の効資効果をあげされることとなる。

懸案の富津内中校舎遂に完成

富津内中部地区住民の多年の懸案であった富津内中学校今年が昨年十二月二十四日遂に完成した。

この建設は五城目町大字荒倉長一郎氏の手により快調に工事をすゝめ来る二月十日完工の予定である。

本工事は二ケ年継続事業として起工したので、今回はその第一期工事部分保育室西教室と校舎の一部であるが、これが完工を待ち管理室は旧庁舎の一部を利用して、現在五城目小学校に同居中の幼稚園のものである。これが完成により教育の機会均等の実現の一歩前進したものとして関係者は大変喜んでいる次第である。



（写真）上＝五城目一中の第四期工事　中＝完成の富津内中　下＝建工近い五城目幼稚園

スマートな幼稚園近く完工

旧玖島学舎跡に新築中の五城目幼稚園々舎は、五城目町原田俊蔵氏の手により快調に工事をすゝめ来る二月十日完工の予定である。

佃翌二氏は一月中に行われる予定である。

年頭に望んで

五城目町教育委員長　児玉孫左工門

新年谷目度ご御座います。

数々の荒れすさんだ社会問題の中に不穏な空気を感じ、とこと清新の新春を迎え就、御同慶に堪えない次第であります。

寒霜ある年頭に当り、町広報を通じて普段考えている教育諸問題について年頭挨拶として述べます。

明るく豊かな町づくりは、町民生活の中心とした、関係者の緊力により、教育の高低につながるものであり、その中で直接影響するものとして、納税を初めとした町政への協力は何は、根底に於いて教育のあり方が、町民の生活に大きな影響を与えていることは誠に大切なことと思います。

わけても本町に於いてはかつて、何をみない全国的行催のレスリング大会の開催に当つて、町思一丸となつてその大事業をなし遂げたことは教育上からみても大成功であり、今後の教育百年の大計基礎がも出来たものと思います。

更に本町において法政大学校の建築、第一中学校設備の建築等の建設行為の最高学府である学業の行動は、今、自分を後ろものがあるとして、社会教育施設、機構の整備と共に、本町の発展を教育面に於いても新文化運動の一翼の責任と、それに対して